

四月の法座・行事

- 八日・同朋の会例会
大阪教区第七組
教應寺住職
建部 智宏 師
(午後二時)
- 十二日・一如上人御祥月御命日
・闍如上人御祥月御逮夜
常永代経
(午後二時)
- 十三日・闍如上人御祥月御命日
(午前八時)
- 十四日・琢如上人御祥月御命日
- 二十四日・綽如上人御祥月御命日
・正信偈書写の会
(午前十時)
・定例法話
大阪教区第六組
雲觀寺住職
青木 知和 師
(午後一時半)
- 二十七日・宗祖聖人御逮夜
(午後二時)
- 二十八日・宗祖聖人御命日
(午前八時)

◆敬 弔

生前の遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

- 法名 釋尼 歡喜
俗名 坂口 喜美代
三月十四日寂 享年七十歳
- 法名 釋一 心
俗名 谷元 保
三月十七日寂 享年七十歳

◆今月の法語

えしん
回心というは
じりき しん
自力の心を
ひるがえし
すつるをいうなり
「唯信鈔文意」

◆編集後記

三月も下旬になると日差しが暑いと感ずるくらいに暖かくなりました。
天満別院周辺の桜も気づけば満開を迎えておりました。桜といえば、十一日から造幣局の桜の通り抜けが開催されます。皆様も別院に参られた際には一度足を運ばれてみてはいかがでしょうか。なお今年は一週間です。
堀河

霊園・墓石



太田石材店

本社 〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号
本店 〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目2番18号
TEL 06-6930-5075 0120-30-5075
FAX 06-6930-5078

六字城

「和讃のおはなし」

真宗大谷派 鍵役
宣心院 大谷 暢文

『現世利益和讃(十二)』

願力不思議の信心は

大菩提心なりければ

天地にみてる悪鬼神

みなことごとく

おそるなり

(阿弥陀さまの本願力の信心は、大菩提心であるから、天と地に満ちている悪鬼神たちは、みなことごとく畏れるのである。)

発行

真宗大谷派(東本願寺)天満別院
大阪市北区東天満一-八-二六

電話 六三五-一三三三
代表者 輪番 武宮 信勝

このご和讃は、阿弥陀さまの本願力の信心が、悪鬼神を退避させて下さることを詠っています。そして前回の和讃の善神の守護を詠ったご和讃と対になるような形をとって詠われています。

一句目の「願力不思議の信心」ですが、「願力」とは阿弥陀さまの本願力のことです。「他力」と置き換えることができりますが、具体的にはお名号のはたらきをいいます。お名号のはたらきとは、私たち凡夫が阿弥陀さまのお浄土に往生し、そこで仏とさせていただくことです。このことはまさに不思議といえることでしょう。なぜなら、そこにはたらくお力は阿弥陀さまからのお力のみであって、私たちの力は何もはたらいっていないからです。これがそが大いなる不思議です。

次にある「信心」ということですが、既存の仏教では、信心とは私自身が起こすものと解釈されてきました。しかし親鸞聖人の師である法然上人は、私

たちの起こす信心を阿弥陀さまは期待しておられないとし、信心、いわゆる菩提心をお捨てになります。それでは私たちに「信心」というものはないのでしょうか。もちろん「信心」「菩提心」というものがなければ仏道が成立しません。ではその「信心」「菩提心」はどのような形で私たちのもとにあるのかというと、それは阿弥陀さまから賜るという形で私たちのもとにあるのです。阿弥陀さまから賜る信心を「大菩提心」としているのです。そのことを『信文類』において親鸞聖人はしっかりとおさえておられます。

私自身の起こす信心であれば揺らぐことも消えることもあるでしょうが、阿弥陀さまの信心を賜っているがゆえに、私たちの信心は揺るぎのないものなのです。信心が揺るがないということとは、それこそ悪鬼神が心に入り込む余地がないということでしょう。ですから「みなことごとくおそるなり」ということなのです。

◆輪番事務引継に

ついてのお知らせ

去る三月八日、九日に本山から輪番引継監査が行われ、教務所長立会いのもとで輪番事務引継が行われたことをお知らせいたします。

◆春季彼岸会並総永代経法要

兼墓地納骨(物故者)

追弔法要勤修

去る三月二十四日、天満別院に於いて春季彼岸会並総永代経法要を勤修いたしました。当日は天候に恵まれ多数のご参拝をいただきました。

法要後には大阪教区第七組 本照寺 前住職 沖野 頼信 師のご法話があり、皆さん熱心に聴聞されておられました。

沖野先生には、「三法印」や「浄土と地獄」、「彼岸と此岸の違い」などについてお話いただきました。

◆天満別院院議会開催報告

去る三月十九日、天満別院に於いて責任役員会、院議会が開催されました。左記の通り議案の審議が行われましたのでご報告いたします。

記

- 第1号 二〇一八年度経常部歳入歳出 予算(案) について
- 第2号 二〇一八年度事業部歳入歳出 予算(案) について

以上いずれも慎重審議の結果、全会一致で承認されました。

◆別院墓地のご案内

現在、天満別院では真宗のご門徒の墓地使用者を募集しています。

冥加金、申請方法等、詳しくは別院 寺務所までご連絡ください。

尚、収骨等の儀式執行は別院職員が行います。

◆同朋大会開催のお知らせ

左記の通り第四十三回大阪教区同朋大会が開催されます。ご参加希望の方は四月二十五日迄に別院寺務所までご連絡ください。

記

日時 五月二十六日(土)
午前十時～午後十二時三十分

会場 難波別院 本堂

テーマ 集おう いのちのサンガ
くつながるいのち 託されたいのち

講師 東京教区

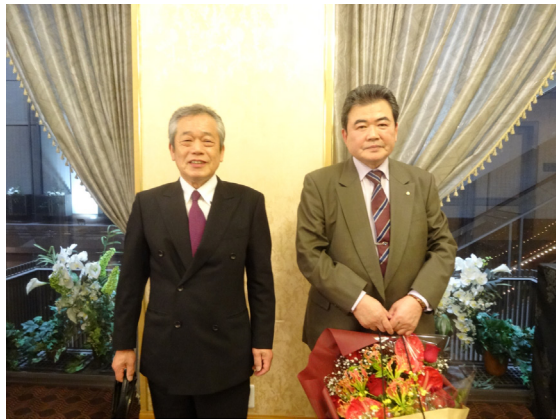
東京第五組 存明寺住職
酒井義一氏

参加費 お一人千円

◆天満別院輪番歓迎会

去る三月二十九日(木)にホテル阪急インターナショナル四階花風に於きまして、門徒会会長 宇野 善昭氏、責任役員 奥林 暁氏、榎屋 義雄氏、谷 康司氏の役員一同を発起人として天満別院輪番歓迎会を開催いたしました。

多数のご参加をいただき、盛大に和やかな一時を過ごすことができました。事を御礼申し上げます。



輪番雑感

彼岸に思う

「彼岸の中日」を迎え、桜の開花と共に本格的な春爛漫の時節となりました。

当別院の輪番の職について二十日あまりの日が流れました。生活上の基盤、文化・習俗の違いに戸惑いを感じつつも、「ナマンダブツ」の心根は信心一つに極まる姿は、何処にあっても不変であります。

さて、今日三月二十一日は、「春分の日」、祝祭日でもあります。残念ながらマスコミをはじめ新聞紙上にも「彼岸の中日」という報道はほとんど見受けられません。我々の先達の方々は天正時正と称して暑からず、寒からず念仏修行のよい時期として、古来からお寺に参詣されました。しかしながら、今日はどうでしょうか。先祖を偲ぶお墓(納骨堂)には、少なからずの参詣者は有られても、仏法聴聞の根本道場としてのお寺に身を置く人々は、ほんの僅かの人々であります。お寺も

時代と共に、延一週間の彼岸法要が五ヶ日間になり、三ヶ日間になり、今や一日法要が、ほぼ八割になってきております。何故そうなったのかと聞えば、呼びかけても参詣者が来られないし、また何日間も法話してくださるご講師さんも手不足になって見当たらないようになって来たかと答えられる。どうしたことでしょうか?お寺での法要が時代社会性にそぐわなくなってしまうのかなあと思わざるを得ない。

覚如上人は、春と秋の「二季の彼岸をもつて、念仏修行の時節と定むるいわれなき事」(『改邪鈔』)と誠めておられます。

私たち真宗門徒は一年を通して、いや一生涯をご本願のいわれを聴き続けて欲しいと、阿弥陀仏から願われていた身であったことに気づかせてもらうことは、いまさら言うに及ばないことです。ご法縁に遇うことが困難な時代社会なればこそ。共にお寺が人間性を回復する道場として立ち上がってまいります。